

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	株式会社ドコモ・ドットコム
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>弊社は、モバイルの有効な活用法をコンテンツプロバイダー様に、運営するサイトの収益向上のための施策をご提案するコンサルティングサービスを業としております。今回の意見募集につきまして、弊社のコンサルティング事業者としての立場から、意見を提出させていただきます。</p> <p>日本のモバイルコンテンツ市場は世界に類を見ない発展を遂げてきましたが、これには多様なコンテンツプロバイダーによるコンテンツの充実が大きな役割を果たしてきたと考えられます。コンテンツの充実がユーザのコンテンツ利用を促進するとともにユーザを増加させ、そのことが更にコンテンツプロバイダーの新規参入を促し、コンテンツを充実させる、といった好循環を生んできました。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>今般検討を進めておられる、未整備地域へのブロードバンド基盤整備やブロードバンドの利用促進に関しても、上述のような好循環を作り出すことが有用であると考えます。</p> <p>ブロードバンド未整備地域の多くは、交通が不便であったり、住民の高齢化が進んでいたりという問題を抱えています。このような地域においては、行政サービス等の電子化やコミュニケーション手段の利便性向上等の潜在的ニーズは高いと考えられます。このような地域において、例えば行政等が自ら、住民に対して情報を発信したり、「電子パスポート申請」や「電子住民票」などの電子行政サービスを提供すること、機器やサービスの利用方法等について講習を行う等のICTリテラシー支援を行うこと等に取り組むことにより、多くの住民の方々が携帯やブロードバンドを必然的に利用する機会が増えてきます。その結果、すでにコンテンツを利用している方はさらに活用機会が増えますし、使っていなかった方もICTに関するナレッジ・リテラシーが向上すると共に、他のコンテンツの利用を始めるきっかけになり、更に利用が促進されます。それによって、より多様なコンテンツが充実し、住民の利便性が増していくという好循環が期待できます。このようにICTの利活用が促進されることにより、事業ベースでのブロードバンド基盤整備 100%達成も可能になっていくものと考えられます。</p> <p>これまでICTを利活用しておられない方々に対して行政自らが積極的に利活用のきっかけを提供し、出来るだけ多くの方々に「ICTを利用したい」と思っただくことが、ブロードバンドの整備を加速することに繋がるのではないかと考えております。</p>

